

平成 17 年度当初予算 重点プログラム別概要

絆 3 : 熊野古道の保全と活用による地域活性化プログラム

(主担当部局 : 地域振興部)

- (1) 世界遺産(熊野古道)対策推進事業
- (2) 熊野古道集客交流推進事業
- (3) 熊野古道中学生等交流事業

< プログラムの事業費 >

(単位 : 千円)

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	3 か年計
当初計画	825,792	1,809,000	543,000	3,178,000 程度
見直し後	876,191	2,028,319	1,149,909	4,054,419

注 : 見直し後の 16 年度は現計予算額、17 年度は予算要求額、18 年度は同見込額

< 事業目標の見込み >

目標項目		平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
(1) 熊野古道の来訪者数	目標値	1 5 万人	1 7 万人	1 8 万人
	実績値	1 2 万人		
(2) 東紀州地域の宿泊者数	目標値	2 5 万人	2 7 万人	2 9 万人
	実績値	2 1 万人		
(3) 中学生交流会・発表会への参加学校数	目標値	5 校	7 校	9 校
	実績値	4 校		

< 進捗状況 (現状と課題) >

- ・世界遺産に指定された熊野古道の保全と活用の一層の推進をはかるため、住民・市町村等の協働で策定した「熊野古道アクションプログラム」の考え方に基づき住民や市町村と協働で各種プロジェクト等を実施しています。
- ・引き続きその保全と活用に取り組んでいくとともに、県民全体のかげがえのない歴史的・文化的遺産であるとの認識や理解に努めていく必要があります。
- ・熊野古道を始めとする様々な地域資源の有効活用策を展開し、集客交流を推進して、東紀州地域の活性化につなげることが課題となっています。

< 平成 17 年度の取組方向 >

- ・今後は、これまでの取り組みに加えて、多様な自然のなかで育まれた歴史や生活文化など東紀州のもつ特性を活かした熊野古道ツーリズムを実施していきます。
- ・熊野古道センター (仮称) の整備を進めるほか、紀南集客交流プロデュース事業や紀南中核的交流施設の整備等に取り組めます。

- ・熊野古道をテーマとした教育活動を実施し、その取組の発表の場として交流会を開催するとともに、体験活動を通じて、熊野古道の恵まれた自然や歴史・文化等について理解を深め、そのすばらしさを発信します。

< 主な予算要求事業 >

世界遺産(熊野古道)対策推進事業【17年度事業費 68,211千円】

- ・**新**熊野古道ツーリズム事業【17年度事業費 35,842千円】

世界遺産に登録され、注目度の高まる熊野古道を単なる観光資源とするのではなく、古道を取り巻く自然や生活、文化など地域の特性を感じ、学び、楽しむカルチャーツーリズムの一環としての「熊野古道ツーリズム」を推進します。

熊野古道集客交流推進事業【17年度事業費 1,958,059千円】

- ・紀南集客交流推進事業費【17年度事業費 22,930千円】

「紀南地域の振興策」を基本として、熊野古道を中心とした地域資源の活用を図りながら、集客交流の基盤整備や体制づくりを進めます。

- ・中核的交流施設整備事業費【17年度事業費 461,344千円】

「紀南地域の振興策」に基づき、集客交流の推進に向け、中核となる交流施設の整備に取り組みます。

- ・熊野古道センター(仮称)整備事業費【17年度事業費 1,463,285千円】

東紀州の集客交流のための情報拠点となる熊野古道センター(仮称)の建設工事、展示工事、運営計画の策定など、ソフト・ハードの両面から事業を進め、平成18年度のオープンを目指して、整備を推進します。

熊野古道中学生等交流事業【17年度事業費 2,049千円】

県内の中学生が、熊野古道の恵まれた自然や歴史・文化等について、理解を深めるとともに、体験活動等の交流会を開催します。